

基本政策分科会（12月3日開催）へのコメント

2024年12月3日

寺澤 達也

本日開催の基本政策分科会において「次期エネルギー基本計画の骨格（案）」について発言する時間が無かったので、隅会長のご指示に従い、現在準備中の草案に向けてコメントを文書にて提出します。

1. 不確実性

本日の会議でのキーワードは不確実性だったと思います。現在準備されている草案においても、こうした不確実性を明確に認識した上で、どのように不確実性に対応して行くのか、対応策を具体的に盛り込んでいくことが重要だと思います。

2. 省エネ

草案における省エネの中では、AI 自身の省エネと AI を通じた省エネを進めるための政策も盛り込んで頂きたいと思います。また、狭義の省エネだけでなく、DR(Demand Response)や DSM(Demand Side Management)といったデマンドシフトの政策にもしっかりと取り組んで頂けるようお願いします。

3. 次世代電力ネットワーク

骨格で列挙されているのは個別技術にとどまり、システム対応が反映されていません。DER(Distributed Energy Resources)など次世代電力ネットワークに向けたシステム対応も草案には是非盛り込んでください。

4. 石油

「備蓄/SS等を含む」とありますが、ガソリン需要が減少し、製油所の能力が縮減される中での「石油製品毎の需給安定」も草案において取り上げることが重要だと思います。

5. 炭素除去

CCUS は明記されているのですが、炭素除去は明示的には掲げられていません。EU でも 2040 年には相当量の炭素除去を盛り込んでいます。日本のエネルギー基本計画草案においても BECCS などの炭素除去を位置づけることは重要だと思います。

6. 海外市場獲得

秋元先生のプレゼンで示されたように、エネルギー転換が成長につながるかどうかは海外市場獲得の有無に係っています。この点はGXビジョンだけに委ねるのではなく、エネルギー基本計画草案においてもこの重要性を明記し、国際的競争力の持続的確保・強化を含め、このための実効性のある具体的戦略を示して頂くことが必要だと思います。

(以上)